

4 課

4月25日

聖書

——私たちの神学の権威ある源



安息日午後

4月18日

今週のテーマ

暗唱聖句

ただ教^{おしえ}とあかしとに求めよ。まことに彼らはこの言葉によって語るが、そこには夜明けがない。(イザヤ 8：20、口語訳)

そして、教えと証しの書についてはなおのこと、「このような言葉にまじないの力はない」と言うであろう。(イザヤ 8：20、新共同訳)

今週の聖句

マルコ 7：1～13、ローマ 2：4、1ヨハネ 2：15～17、IIコリント 10：5、6、ヨハネ 5：46、47、7：38

自分たちの信じていることを裏づけるために聖書を用いないキリスト教会はありません。しかし、神学における聖書の役割と権威は、すべての教会で同じわけではありません。それどころか、聖書の役割は、それぞれの教会によって大きく異なります。これは重要でありながらも難しい問題です。私たちは、聖書の解釈に影響を及ぼす五つの有力な源（伝統、経験、文化、理性、聖書そのもの）を研究することによって、この問題を探っていきます。

これらの源は、あらゆる神学、あらゆる教会において、重要な役割を果たしています。私たちはみな、私たちに影響を及ぼすさまざまな伝統や文化の一部です。私たちはみな、自分の考え方を形成し、自分の理解の仕方に影響する経験を持っています。私たちはみな、物事を考え、評価する心を持っています。私たちはみな、聖書を読み、神と御旨を理解するために聖書を用います。

これらの源のどれに（または、どの組み合わせに）、私たちの聖書の解釈の仕方における最終的権限があり、これらの源はどのような相互関係の中で用いられているのでしょうか。いずれかの源を優先することが、非常に異なる強調と結果をもたらし、私たちの神学全体の方向性を最終的に決めるのです。

伝統それ自体は、悪いものではありません。伝統は私たちの日常生活で繰り返される行動に、ある種の型や枠組みを与えます。伝統は、私たちがルーツとつながり続けるのに役立ちます。それゆえ、伝統が宗教の中で重要な役割を果たすことは驚くに当たりません。しかし、伝統と結びついた危険もあります。

問1 マルコ7:1~13は、イエスが当時の人間の伝統（言い伝え）のいくつかにどう応じられたかということについて、何を教えていますか。

イエスが立ち向かわれた伝統は、ユダヤ人社会において教師から生徒へしっかりと伝えられ、イエスの在世当時、それは聖書と同等に扱われていました。しかし、伝統には長い時間をかけて増える傾向があり、もともとは神の言葉や御計画の一部でなかった細かなことや側面がどんどん蓄積してしまうのです。人間が作ったこのような伝統は、たとえ尊敬される「昔の人」（マコ7:3、5、口語訳参照）、つまりユダヤ人社会の中の宗教指導者たちによって奨励されてきたにせよ、神の律法と同等ではありません（同7:8、9参照）。それらは人間の伝統であり、最終的に「神の言葉を無に（す）る」（同7:13）ところまで至ってしまいました。

問2 1コリント11:2、IIテサロニケ3:6を読んでください。私たちは神の言葉と人間の伝統（言い伝え）をどのように区別したらよいのでしょうか。この区別をすることは、なぜ重要なのですか。

神の生ける言葉は、その言葉に対する敬虔で忠実な態度を私たちの中に生み出し、この忠実さが、何らかの伝統を生み出します。しかし、私たちの忠実さは、常に生ける神に向けられねばなりません。この神が、書かれた神の言葉〔聖書〕の中に御旨を啓示されたのです。それゆえ聖書には、人間のあらゆる伝統に優先する比類なき役割があります。聖書はどんな伝統よりも（たとえ良い伝統であっても）高く上にあるのです。私たちが神や御言葉と交わる経験から生じる伝統は、聖書という物差しで絶えず吟味される必要があります。

私たちが教会としてすることで、「伝統」というラベルを貼ることのできるものは何ですか。それらと聖書の教えを区別することは、なぜ重要なのですか。

問3 ローマ2：4、テトス3：4、5を読んでください。神の慈愛、寛容、赦し、慈しみ、愛を、私たちはどのように経験したらよいのでしょうか。私たちの信仰が単に抽象的、知的認識でなく、実際に経験するものであることは、なぜ重要なのですか。その一方で、私たちの経験は、どのように聖書と対立したり、私たちの信仰を誤らせたりする可能性がありますか。

経験は人間存在の一部であり、私たちの感情や思考に強い影響を及ぼします。神は、私たちと被造物との関係が、また私たちと神御自身との関係さえもが、経験に強く結びつけられ、経験によって形作られるように人間を設計なさいました。

神は、私たちが救いの喜びや御言葉の約束の力を味わうとともに、関係のすばらしさ、芸術や音楽の美しさ、被造物の不思議さを経験することを願っておられます。私たちの宗教や信仰は、単なる教理や合理的な意思決定以上のものです。私たちの経験は、神に対する私たちの見方を大いに形成し、御言葉に対する理解を形成します。しかし私たちは、神の御旨を知ることに関して、自分の経験の限界と不十分さをはっきり理解する必要があります。

問4 IIコリント 11：1～3には、どのような警告がありますか。私たちはこのことから、自分の経験を信頼する限界について、何を学ぶべきですか。

経験は人をだますことが大いにあります。聖書的に言えば、経験は本分をわきまねばなりません。経験は、聖書によって情報を与えられ、形作られ、解釈される必要があります。時として私たちは、神の言葉や御旨と調和していないことを体験したいと思います。その際には、自分の経験や願望よりも神の言葉を信頼することを学ばねばなりません。私たちは、自分の経験さえもが、神の言葉と常に調和し、聖書の明快な教えと矛盾していないように用心すべきです。

神と隣人に対する愛が最も重要な掟である宗教は（マコ 12：28～31 参照）、明らかに、経験を重視する宗教です。その一方で、私たちが自分の経験を神の言葉によっていつも吟味することは、なぜ重要なのですか。

私たちはみな、特定の文化に属しており、その文化の一部です。また、文化によって影響を受け、形作られています。だれも文化から逃れられません。実に、旧約聖書の何割ぐらいが、周辺諸国の文化によって墮落した古代イスラエルの物語であるか、考えてみてください。今日の私たちが彼らとどこか違うとか、彼らより良くなっているとは思えません。

神の言葉もまた、特定の文化の中で与えられましたが、この一つの文化に限定されてはいません。文化的要素は、聖書に対する私たちの理解に避けがたく影響を及ぼしますが、私たちは、民族、帝国、社会的地位といった既存の文化的範疇^{はんちゆう}を聖書が超えているという事実を見失ってはなりません。このことは、聖書が人間のいかなる文化をも上回り、私たちがすべての文化の中に見いだす罪深い要素を矯正できる理由の一つなのです。

問5 1ヨハネ2：15～17を読んでください。ヨハネはどういう意味で、世にあるものを愛してはいけなく、と述べているのですか。どうしたら私たちはこの世に生きながらも、世俗的な考え方をしないでいられるのでしょうか。

神が創造されたほかのものと同様、文化は罪の影響を受けています。それゆえ、文化もまた神の裁きを受けます。確かに、文化のいくつかの側面は、私たちの信仰とうまく一致していますが、私たちは常に注意深く両者を区別しなければなりません。理想的には、聖書の信仰は（必要であれば）既存の文化に挑み、神の言葉に忠実な逆の文化を生み出すべきです。もし私たちが上から来る何かを自分の内に留めていなければ、じきに周囲のものに流されてしまうでしょう。

エレン・G・ホワイトは、次のような洞察を提供しています——「キリストに従う人々の原則と関心は世とは別のものでなければなりません、世から孤立すべきではありません。救い主は人々と絶えず交わりを持ち、神様の意思と一致しないことはすべきでないと教えて人々の心を高く引き上げました」（『次世代につなぐ信仰』323ページ、英文）。

あなたの文化のどういう側面が、聖書の信仰と正反対ですか。もっと重要なことに、私たちの信仰を墮落させようとするそのような側面に対して、私たちはいかに断固たる態度を取ればよいのでしょうか。

問6 IIコリント10:5、6、箴言1:7、9:10を読んでください。なぜ私たちの思いをキリストに従わせるのが重要で、主を畏れることが知恵の初めなのですか。

神は私たちに、考える力、合理的に論じる力を与えてくださいました。人間のいずれの活動も神学的議論も、考える力や結論を引き出す力を前提としています。私たちは不合理な信仰を支持しません。しかし、18世紀の啓蒙時代をきっかけに、人間の理性は、とりわけ西欧社会において、新しい支配的な役割を担いました。それは、私たちの思考力や正しい結論に達する力をはるかに超えた役割でした。

私たちのあらゆる知識は感覚的経験に基づいているという考えとは対照的に、もう一つの見方は、人間の理性を知識の主因とみなします。合理主義と呼ばれるこの見方は、真理は感覚的なものでなく、知的なものであり、理性によって得られると考えるのです。言い換えれば、確かな真理は存在し、私たちの理性だけがそれを直接的に把握できるということです。この見方は、人間の理性を真理の基準や規範にします。こうして理性は、ほかのあらゆるものがひれ伏す新しい権威になりました。その「あらゆるもの」の中には、教会の権威も、さらに劇的なことに、神の言葉である聖書の権威も含まれています。人間の理性にとって自明でなかったすべてのことは切り捨てられ、その正当性は疑問視されました。このような態度は、聖書の大部分に影響を及ぼしました。あらゆる奇跡と神の超自然的な業（例えば、肉体を伴ったイエスの復活、処女降誕、6日間の天地創造など）は、もはや真実であるとも、信頼できるとも考えられていません。

しかし実のところは、人間の合理的に論じる力さえ罪の影響を受けており、キリストの支配下に置く必要がある事実を、私たちは思い出さねばなりません。人間は知性において暗くなっており、神から遠く離れています（エフェ4:18）。さらに、神が私たちの創造主であるという事実は、聖書的に言うなら、私たちの理性が神から独立して自律的に機能するものとして創造されたのではないことを示しています。それどころか、「主を畏れることは知恵の初め」（箴9:10、さらに箴1:7と比較）なのです。私たちが正しく合理的に考えることができるのは、（書かれた神の言葉の中に具現化されている）神の啓示を私たちの人生における最上位のものとして受け入れ、聖書に書かれていることに自ら進んで従うときだけです。

数百年前、アメリカの大統領トーマス・ジェファーソンは、理性に反する部分をすべて切り取って、自分の新約聖書を作りました。復活を含むイエスの奇跡のほとんどがなくなりました。このことから、真理を理解するうえでの人間の理性の限界について、何を教えられますか。

聖霊は人間に聖書を啓示し、靈感を与えてくださいました。その聖霊が、神の言葉に反するように私たちを導いたり、神の言葉から私たちを逸らせたりすることはありません。セブンスデー・アドベンチストにとって、聖書は人間の伝統、経験、理性、文化よりも高い権威を持っています。聖書だけが、あらゆるものを吟味するのに必要な基準なのです。

問7 ヨハネ5：46、47、7：38を読んでください。イエス・キリストにとって、霊的疑問を理解するための究極の情報源は、何でしたか。聖書は、イエスが真のメシアであられることを、どのように裏づけていますか。

ある人たちは、聖霊から特別な「啓示」や命令を受けた、と主張しますが、それらは聖書の明確なメッセージに反しています。彼らにとって、聖霊のほうが神の言葉よりも高い権威を得ているのです。靈感を受けて書かれた神の言葉を無効にし、その明確なメッセージをはぐらかす人はみな、危険な場所を歩んでおり、神の“霊”の導きに従っていません。聖書は私たちの唯一の防壁です。それだけが、信仰や宗教的実践に関するあらゆることの信頼できる基準なのです。

「聖霊は、聖書を通して心に語り、真理を心に印象づける。こうしてみたまは誤りをばくろし、それを魂から追い出される。キリストが選民をご自身に心服させられるのは、真理のみたまが神のみことばを通して働くことによってである」(『希望への光』1028ページ、『各時代の希望』下巻156ページ)。

聖霊は神の言葉に置き換えられる存在と理解してはいけません。むしろ、聖霊は私たちをキリストへ引きつけるために、聖書を通して、また聖書と調和して働き、そうすることで聖書を真の聖書的霊性の唯一の基準にされます。聖書は健全な教えを提供するとともに(1テモ4：6参照)、神の言葉として信頼でき、全面的に受け入れるに値します。聖書を批判することは、私たちの務めではありません。むしろ神の言葉に、私たちと私たちの考えを裁く権利と権威があるのです。何しろ、聖書は神御自身の言葉だからです。

霊的疑問に関して、なぜ聖書は主観的な印象より安全な指針なのですか。あらゆる教えと、私たちの霊的経験を吟味する基準として聖書を受け入れないとき、どのような結果が待ち受けていますか。もし私的啓示が霊的疑問の最終回答であるとしたら、もたらされるのは混乱と誤りだけでしょう。それはなぜですか。

参考資料として、『各時代の大争闘』第37章「ただ1つの防壁——聖書」を読んでください。

神の言葉に関する私たちの考察の中には、伝統、経験、文化、理性、聖書がすべて含まれています。決定的な問題は、これらの要素のどれが私たちの神学において最終決定権、究極の権威を持っているかということです。聖書を肯定することと、(聖霊の働きを通して、)聖書によって人生に影響を受け、生き方を変えられることとは、まったく別の話なのです。

「神は、みことばを通して、救いに必要な知識を人間にお与えになった。われわれは、聖書を、神のみこころについての権威ある、まちがいのない啓示として受けとらねばならない。聖書は品性の規準であり、教理を示すものであり、経験を吟味するものである」(『希望への光』1592ページ、『各時代の大争闘』上巻(3)ページ)。

話し合いのための質問

- ① 神の律法の精神は、心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神である主を愛し、隣人を自分のように愛することです(マタ22:37~40参照)。この精神を生きることよりも、何らかの人間の伝統(言い伝え)を守ることのほうが、なぜ容易なのですか。
- ② 安息日学校のクラスで、日曜日の最後の質問に対するあなたの答えを発表してください。伝統はあなたの教会でどのような役割を果たすべきですか。宗教的伝統のいかなる部分に、あなたは祝福や問題を見ますか。
- ③ 伝統がどれほど良いものであるとして、それが、私たちの最終的基準、最終的権威である書かれた神の言葉に取って代わらないようにしなければなりません。どうしたらそうなることを確実に防げるでしょうか。
- ④ 夢を見て、その中で主が、「新約時代の休息と礼拝の本当の日は日曜日である」と言われた、と主張する人がいるとしましょう。あなたはその人に何と言いますか。このような話は、常に経験が神の言葉によって吟味されなければならないということについて、何を教えていますか。
- ⑤ 安息日学校のクラスで、あなたの教会がどっぷりつまっている文化について話し合ってください。その文化は、あなたの信仰にどのような影響を及ぼしていますか。今振り返ってみて、どのような文化が教会員の行動に否定的と思える形で大きな影響を及ぼしましたか。歴史の中から、どんな実例を見いだせるでしょうか。このことから、現代の私たちが同じ過ちを犯さないために、どのような教訓を得ることができますか。